

歳入 210億6347万円

歳出 202億2720万円

一般会計

アライグマ個体分析調査委託金

Q 本市での被害の状況は。

A **生活環境課長** 野生化したアライグマによる農業被害や住宅等への侵入があった。捕獲を開始した21年度は1頭のみ捕獲したが、26年度は爆発的に増加して過去最高の40頭であり、うち35頭が農業被害に伴う箱わなによる捕獲である。捕獲場所は、五味ヶ谷地区で17頭、高倉地区で14頭、三ッ木地区で6頭、太田ヶ谷、藤金及び上広谷地区が各1頭である。

小・中学校児童生徒等給食費

Q 不納欠損(9件)の経緯は。

A **学校給食センター所長** 昨年4月の鶴ヶ島市債権管理条例の施行に伴い、庁内に連絡調整会議を設置した。庁内の情報共有が一部可能になり、時効期間が満了している滞納者について、税の執行停止の情報と共有した。給食費も支払い能力がないと判断し、今回の処分に至った。

Q 滞納の世帯数と徴収にあたる職員の数。

A **学校給食センター所長** 26年度末で71世帯。事務を行う職

員は4人。そのうちの1人が週3日勤務の非常勤職員であり、当該職員は収納に専念。残りの職員は昼間は給食の提供に関する事務を行い、夜や土、日に出勤して徴収にあっている。

寄附によるまちづくり寄附金

Q 26年度の寄附金額とその実質的な収入は。

A **地域活動推進課長** 26年度の寄附金額は、約1億3500万円。事務的経費やふるさと記念品の発送、人件費等の経費を除いた5500万円から5700万円程度が実質的な収入となる。



ふるさと納税記念品カタログ

地域支え合い推進事業

Q 運営費補助金の額と用途は。

A **地域活動推進課長** 1地域支え合い協議会に130万円を限度として交付。各協議会において、防災、助け合い等の事業に割り振っている。27年度からは、事業ごとの補助に変更した。

「コミュニティ活動推進事業

Q 自治会の加入率と加入促進への取組は。

A **地域活動推進課長** 加入率は、65割と横ばいである。加入世帯数は、1万9176世帯で前年より105世帯増加したが、市全体の世帯数がそれ以上に増加している。高齢化等を考えると、地域の基盤である自治会への加入促進に努めなくてはいけない。鶴ヶ島市コミュニティ協議会でも、自治会の組織や活動を活性化しつつ、加入促進につなげていくことを話し合っている。

地域でスラム健康運動事業

Q 事業の成果と今後は。

A **健康増進課長** 26年度は300人が参加し、61割にあたる183人が今年度も継続参加している。参加者の1日当たりの平均歩数が624歩増加し、好意的な意見も得られた。また、講座等を市民センターごとに行ったことで、知り合いができた、地域の活動に興味を持つなど、コミュニティに関して大きな成果があった。3年間継続して事業を実施するが、その後は費用対効果も含めて検討する。

農産物加工品づくり応援事業

Q サフラン加工品の現状は。農家は生計を立てられるのか。

A **産業振興課長** ほかの作物と比べて特別高くは売れていないが、農地が小規模で分散化されている本市の現状に合っていることや周辺大学との連携に着目している。飲料の加工品が28年度に完成予定。サフランの生産のみで農家が生計を立てる想定ではなく、多品目少量生産の中の1つにサフランを位置づけている。

新規就農支援事業

Q 市外の新規就農者の市内への移住の状況は。

A **産業振興課長** 現在は、支援決定後の研修中に本市に移住していただいている。ただし、以前支援した方の中には、近隣市から通っている方もいる。

水士里のふるさと推進事業

Q 飯盛川の水辺整備後の人を呼び込む観光面の取組は。

A **産業振興課長** 大学、企業、団体などとともに水辺の環境保全活動を行い、活動後には地元の方々と郷土料理で交流を図るなどした。また、NPO法人が高倉産のそばを使った焼酎作りをしているほか、水辺周辺での有機栽培